

1673年 赤沢銅山 鉱毒発生
 1704年 佐渡銀山の煙毒
 1748年 土呂久鉱山の煙毒
 1816年 伊豆国白田村硫黄被害
 1836年 別子銅山 鉱毒水
 1888年 本川郷銅山 鉱毒
 1891年 大野鉄山 鉱毒水
 1901年 高島炭鉱坑夫虐待
 1902年 田中正造足尾銅毒国会質問
 1905年 榎本武揚銅毒調査会設置
 1929年 田中正造明治天皇へ直訴
 1932年 小坂銅山煙害
 1934年 別子銅山四阪島煙害
 1938年 工場法女子深夜業廃止
 昭和28年 大阪で煤煙防止規則
 昭和29年 警視庁、自動車の騒音規制
 昭和31年 フベスト工場労働者健康被害
 昭和32年 水俣病公表
 昭和36年 イタイイタイ病 鉱毒説発表
 昭和36年 胎児性水俣病患者の確認
 昭和36年 四日市ぜんそく患者多発
 昭和36年 四日市ぜんそく患者多発
 昭和36年 四日市ぜんそく患者多発



500年間の社会的災害史のドキュメント

公害・労働災害・職業病・年表

索引付

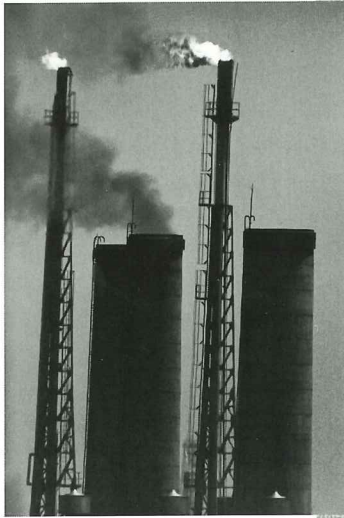
新版

飯島伸子 編著



B5判・上製本・箱入 総頁数496頁
 定価15,750円(本体15,000円+税)
 ISBN978-4-903763-12-5

すいれん舎



公害・環境破壊

公害・環境破壊の実態を収録。

住民・支援者など

公害・環境破壊にかかわる被害者や支援者たちのとった行動などを収録。

企業・財界

公害・労災・職業病のそれぞれについて、企業や業・財界のとった対応などを収録。

1968 (昭和 43)

● 公害・環境破壊	● 住民・支援者など	● 企業・財界
<p>6・2 九州大学構内に米軍板付基地のF4Cファントム戦闘機が墜落。(朝 6・3)</p> <p>6・8 フィリピンの貨物船ホセ・アバド・サントス号、下田沖でタンカーと衝突して沈没。重油が大量に流出し、房総西岸の海苔漁・いけす・海水浴場に被害。(朝 6・10, 11)</p> <p>7・3 横浜市鶴見区でガス管のひびのためガス爆発。5人死亡。(朝 7・14)</p> <p>7・17 東京の地盤沈下が再び激しくなる兆候。千葉・埼玉でも沈下傾向増大。東京都土木技術研究所の発表。(朝 7・18)</p> <p>7・21 沖縄具志川海岸における開南小学校の臨海学校で、237名の学童全員が皮膚炎症(ベトナム枯れ葉作戦被災者と似た症状)にかかる。米軍による毒物投入の疑い。(朝 7・22)</p> <p>7・22 大分県大野郡奥嶽川上流の蔵内金属豊栄鋳業所廃液よりカドミウム検出。(朝 9・16)</p> <p>7 倉敷市内のイ草被害、水島地区外にまで広がる。(211)</p>	<p>6 三井鉱山神岡労組、臨時大会でイタイイタイ病原因に関し、5月8日の厚生省結論の支持を決定。(66)</p> <p>7・5 主婦連、厚生省に対し、抗生物質の野放し販売の取締りを強く要望。(朝 7・5)</p> <p>7・8 新潟水俣病患者21人、昭電を相手に約4,000万円の慰謝料請求の第2次訴訟を起こす。(586-513号)</p> <p>7・10 東京都渋谷で、深夜飲食店の規制をする都条例制定を訴え、住民大会。(朝 7・11)</p> <p>7・16 福岡市の会社員が銀行を相手どっておこしていた日照権訴訟に、50万円の慰謝料支払いを命じる判決。(朝 7・16)</p> <p>7・27 四日市で四日市公害死没者大追悼会開催。宗教者平和懇談会主催。(677)</p>	<p>7・10 業界・経済団体連合会、公害対策委員会を開催。生活環境審議会が答申した亜硫酸ガス環境基準に対し、厳しすぎると結論。反論の準備を開始。(朝 7・11)</p> <p>7・10 サリドマイド訴訟被告の大日本製薬社長、「発売当時の安全基準からみて製薬会社にはミスがなかったと信じている」と記者会見で語る。(朝 7・11)</p> <p>7・18 三菱原子力工業㈱、10日の首相の原子炉設置許可に基づき、建築確認申請。(99)</p>

《新版 公害・労災・職業病年表索引付の特長》

I 500年間の社会的災害史の記録

1469(文明元)年~1975(昭和50)年までの約500年間の公害、労災、職業病など社会的災害史のドキュメント。

II 公害患者の立場に立って編集された唯一の環境年表

公害問題研究者宇井純氏が「横綱の仕事」と絶賛。公害患者、労災・職業病の労働者の立場に立って編集された唯一の年表。

III 全記事項目に典拠文献を明示

研究書、雑誌、論文、新聞など800余の典拠文献から環境社会学者が半生をかけて作成した比類なき労作。すべての記事項目に典拠文献を明示。

IV ユニ

公害・環境
公害事件の

V 県別

すべての
人名、事項

VI 誰に

重要な語

国・自治体

公害・労災・職業病のそれぞれの問題で政府各省庁とその下部機関、自治体とその関係公共機関などがとった対応などを収録。

労災・職業病と労働者

労災・職業病にかかわる被害の実態。および被害者の行動などを収録。

備考

各欄とかかわりがあり参考となる事から、および出版物などを収録。

本文組見本

月日の掲載

6月3日

典拠

6月4日付朝日新聞

典拠

「典拠文献リスト」
No.677を見よ

国・自治体	労災・職業病と労働者	備考
5・30 砂利採取法公布。(133)	6・1 東京都北区の精工化学工場で、イソブチレンボンベ爆発。9人が負傷。(朝 6・2)	6・3 (米)政府、自動車排気ガス規制新基準を正式に発表。1970年型車からの適用で、一酸化炭素・炭化水素許容量を現行の30%減と規定。(朝 6・4)
6・10 大気汚染防止法公布。(133)	6・8 東シナ海で福岡市の漁船、キプロス船籍貨物船と衝突し、10人行方不明。(朝 6・8)	7・5 WHO、「抗生物質使用の食糧増産は潜在的に人間の体に有害」と警告。(朝 7・5)
6・10 騒音規制法公布。(133)	6・21 神戸製鋼所神戸工場で冷却ボイラー掃除中の下請労働者4人が中毒死。(朝 6・22)	7・5 四日市公害を記録する会、『記録・公害』第1号(ガリ版)を創刊。(677)
6・15 都市計画法公布。(133)	7・22 埼玉県下で、農薬ホリドール乳剤の共同散布に従事した4人が中毒。うち1人死亡。(朝 7・22)	7・20 宇井 純、『公害の政治学』(213)
6・24 東京都港区議会、深夜騒音追放促進に関する意見書を全員一致で採択。(朝 6・25)	7~8 山口県下の化学工場でフェノール樹脂で労働者18人に皮膚障害発生。(788)	
7・10 佐藤首相、大宮市への原子炉設置を許可。(99)		
7・15 生活環境審議会、亜硫酸ガス濃度の許容限度について、厚相に答申。1時間につき 0.1 ppm 以下、1日平均 0.05 ppm 以下。ただし、緩和条件あり。(朝 7・11, 16)		
7・30 中央薬事審議会医薬品安全対策特別部会、副作用が問題になっている抗生物質3種につき、注意書きに障害発生の注意を示すべきとの結論を厚生省に提出。(朝 7・31)		
7 労働省安全衛生局廃止。安全衛生部発足。(503)		



ユニークな欄構成

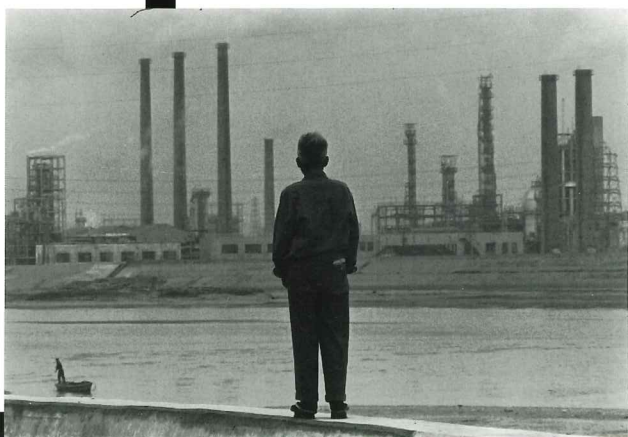
住民・支援者、国・自治体、企業・財界、労災・職業病と労働者、備考など6欄で構成され、横の関係を考えさせる斬新でユニークな欄構成の年表。

地名、人名、事項索引を作成、付加

事項目から索引をピックアップ。県別に分類した地名のほか、D3種類の索引を索引編集委員会が編集、作成し、利用者の便をはかった。

もよくなる平易な記述と内容

はゴシック体で示して読みやすくした。



飯島伸子さんの年表が新たに索引を付けて再版されることは、まことに意義が深い。初版の「序にかえて」に書いたように、本年表は公害論を学び運動する者にとつて、座右に置かねばならぬ資料である。最近、環境問題に関する年表が出ていますが、この年表ほど正確ではない。公害以外の環境問題を取りあげているが、対象が拡散して、かえって年表としては使いにくくなっている。

最近、石原産業がアイアン・クレイという酸化チタン製造過程で生まれる産業廃棄物を「フエロシルト」というリサイクル用品として販売した。愛知、三重、岐阜、京都などに約70万トンが埋められたが、フッ素や六価クロムなどの有害な物質が排出され、住民によって摘発された。四日市工場の副工場長が刑事事件で逮捕され、会社の責任で廃棄物の回収がおこなわれることとなった。石原産業はこれで、大阪アルカリ事件、四日市大気汚染事件、四日市港廃硫酸流出事件に次いで、実に四度目の過失を犯して裁判にかけられることになった。他方、「立地の過失」として、四日市公害裁判の判決できびしく行政の失敗を指摘され、その後は「公害先進県」として国連から表彰された三重県が、こともあろうに有害廃棄物をリサイクル製品と認定し、不法投棄を許していたのである。大きな行政的過失ではないか。

このように、歴史の教訓に学ばねば、何度でも失敗がくりかえされるのである。歴史の教訓に学ぶために、この年表の価値は明らかであろう。

2005年6月に、日本中を震撼させたクボタ・シヨックによって、アスベストの災害が表面化した。実は、アスベストによる労働災害は

1937年頃に、大阪泉南地区の公衆衛生の調査で明らかになっていった。また、1960年代にはアメリカのニューヨーク市立大学マウントサイナイ医学部環境研究所長セリコフ博士のグループの研究で、アスベストとガンとの関係については明確な証拠が提出されていた。それ以後、アメリカでは6万件のアスベスト裁判が進行し、650億ドルの賠償金が払われたが、まだ解決していない。日本政府はこれらのことを知りながら対策を遅らせ、ついにクボタ・シヨックによって、ようやく救済のための法律をつくった。しかし、今後年5000人前後の被害者が発生する可能性があり、今の解決策で済むとは思えない。

飯島さんの年表は、労災・職業病と連続して

公害の歴史を述べている。これが卓見であったことは、深刻なアスベスト労災を出したクボタの周辺で100人をこえる住民にアスベストの被害が発見され、会社と住民の交渉の結果、労災なみの補償がおこなわれることになったことでも明らかである。労災と公害は連続しており、両者は総合して社会的災害としてとらえねばならぬことは理論的にも実態的にも明らかなのだが、それを歴史的に総合した年表はこれが最初であろう。

このように本年表が今日もなお高い価値をもつものであり、再版され、さらに索引を付けて便利になることによつて、研究者のみならず環境問題に関心をもつ市民にも活用されることは喜ばしいことである。できればこの飯島伸子さんの意志を受けついで、この年表に収録されて以後の労災・職業病および公害の年表統編の出版を希望したい。

- 天野正子 (東京女学館大学副学長)
 淡路剛久 (立教大学大学院法務研究科教授)
 植田和弘 (京都大学教授)
 上野千鶴子 (東京大学教授)
 小田康徳 (大阪電気通信大学教授)
 桜井国俊 (沖縄大学学長)
 芝村篤樹 (桃山学院大学教授)
 園田恭一 (新潟医療福祉大学大学院特任教授)
 菅井益郎 (国学院大学教授)
 武田晴人 (東京大学教授)
 寺田良一 (明治大学教授)
 寺西俊一 (一橋大学教授)
 鳥越皓之 (早稲田大学人間科学学術院教授)
 中村紀一 (筑波大学名誉教授)
 本田 豊 (東京人権歴史資料館)
 森まゆみ (作家)

推薦者

新版

公害・労災・職業病年表

索引付

飯島伸子 編著

B5判・上製本・箱入 総頁数496頁
 定価15,750円(本体15,000円+税)
 ISBN978-4-903763-12-5

写真掲載(全6点) 著作 桑原史成

株式会社 すいれん舎

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-10 西村ビル5F
 TEL.03-5259-6060 FAX.03-5259-6070
 E-mail masato@suirensa.jp

取扱店